

令和3年度 北信教育事務所・長野市教育委員会  
合同指導主事研修会

## 保健体育科学習指導案

指導者 長野市教育委員会学校教育課主任指導主事 齋藤 和久 先生  
日時 令和3年4月28日(水) 第2校時  
授業学級 2年D組(41名)  
授業会場 体育館  
単元名 「リズムの特徴を捉えて踊ろう」  
授業者 平田 真理

### I 本校全体の研究

- 1 目指す生徒の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・保体1
- 2 全校研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・保体1
- 3 研究の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・保体1
- 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ・保体2

### II 保健体育科の研究

- 1 学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・保体3
- 2 単元の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・保体3
- 3 単元の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・保体3
- 4 保健体育科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・保体3
- 5 単元展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・保体3

信州大学教育学部附属長野中学校 保健体育科

研究者 平田 真理 大野 高志  
渡辺 南都 尾臺 美彰

# I 本校全体の研究

## 1 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

## 2 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

## 3 研究の重点

- (1) 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする。(重点1)
- (2) 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする。(重点2)

昨年度までの成果と課題から、本年度は、目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」とし、研究を進めていくこととした。「学びを拓いていく生徒」とは、①「各教科等の資質・能力を身に付けていく生徒」と②「①を踏まえて、身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と、捉えている。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説の第1章総説には、「これからの時代を生きる生徒は、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と示されている。

このような力を育成するためには、中学校において、生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて、各教科等の資質・能力の育成につなげていくことが求められている。「見方・考え方」そのものは資質・能力に含まれるものではないが、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、各教科等の学習と社会とをつなぐものである。また、本校では、学習の基盤となる資質・能力のうち、「問題発見・解決能力」が、生徒の生涯にわたる学びの基盤となるものと考え、研究の重点1を「問題発見・解決の過程において、各教科等の『見方・考え方』を働かせることができるようにする」と据えた。

各教科等で身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていくことができるようにするためには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解するなど、生徒が各教科等の学習の有用性を認識していく必要がある。そこで、研究の重点2を「学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする」と据えた。「学んだこと」だけでなく、「学んでいること」を付け加えたのは、単元や題材の学習において、「何のためにこの学習を行っているのか、そこにはどのようなおもしろさや社会とのつながりがあるのか」などを、生徒が自覚することで、学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く取り組む中で、自己の学習を振り返って、次につなげるなど、生涯にわたって学び続けることにつながるのではないかと考えたためである。

各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことが「各教科等の本質」であるとするならば、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉える。そこで、「学びを拓いていく生徒」を育成するために、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、研究を進めていくこととした。

#### 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等の資質・能力を育成するため、本年度の各教科等の研究テーマを下記のように決め出した。

| 各教科等  | 各教科等で育成を目指す資質・能力   | 各教科等の研究テーマ   |
|-------|--|--|
| 国語    | 国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力  | 文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方                        |
| 社会    | 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎        | 社会に見られる課題の解決に向けて公正に選択・判断する力を高める学習の在り方                            |
| 数学    | 数学的に考える資質・能力   | 結果や解決の過程を振り返って考える力を高める学習の在り方                                     |
| 理科    | 自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力   | 観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方                                    |
| 音楽    | 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力  | 感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりする力を高める学習の在り方 |
| 美術    | 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力  | 主題を生み出し豊かに発想し構想を練る力を高める学習の在り方                                    |
| 保健体育  | 心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力                  | 運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする力を高める学習の在り方                      |
| 技術・家庭 | よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力                               | 社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方                         |
| 英語    | 簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力                         | 目的や場面、状況等に応じて、やり取りする力を高める学習の在り方                                  |
| 道徳    | よりよく生きるための基盤となる道徳性   | 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方                           |
| 総合    | よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力  | 問題解決的な活動を発展的に繰り返す力を高める学習の在り方                                     |
| 特別活動  | 様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力 | 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決する力を高める学習の在り方                        |

## II 保健体育科の研究

1 学習：リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせる学習

2 単元の目標 ※【 】内は、学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【G (1) ウ】

軽快なリズムに乗って全身で弾みながら自由に踊るなどの現代的なリズムのダンスの特性や表現の仕方を理解するとともに、リズムの特徴を捉えて全身で踊ったり、変化のある動きを組み合わせ、踊ったりすることができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【G (2)】

仲間に出映えを伝えるとともに、仲間と現代的なリズムのダンスを楽しむための表現を見付けることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等【G (3)】

現代的なリズムのダンスの学習に積極的に取り組もうとするとともに、一人一人の違いに応じた表現を認めようとするすることができる。

### 3 単元の評価規準

| 知識・技能   |  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---|--|---|---|
| <b>知</b> 軽快なリズムに乗って全身で弾みながら自由に踊るなどの現代的なリズムのダンスの特性や表現の仕方を理解している。 | <b>技</b> ①リズムの特徴を捉えて全身で踊ることができる。<br>②変化のある動きを組み合わせる踊ることができる。 | <b>思</b> ①仲間に出映えを伝えている。<br>②仲間と現代的なリズムのダンスを楽しむための表現を見付けている。 | <b>態</b> 現代的なリズムのダンスの学習に積極的に取り組もうとするとともに、一人一人の違いに応じた表現を認めようとしている。 |

### 4 保健体育科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点1に関わる仮説

複数の曲を用いて、それぞれの曲の特徴的なリズムを感じ取り、リズムに乗って動き試す中で、「踊りのポイント」を見いだす展開を位置付けることで、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせる表現することができる。

(2) 重点2に関わる仮説

単元のまとめとして、複数の曲を踊り試す中で、生徒が見いだした「踊りのポイント」を基に、新たな曲を踊る展開を位置付けることで、曲のリズムの特徴に合わせて踊ることの有用性の自覚につながる。

### 5 単元展開

全6時間扱い 本時は第5時

| 段階 | ◆学習  |   | 評価の観点                   | 時間 |
|----|--|---|-------------------------|----|
|    | 教師の指導・支援   | 予想される生徒の反応  |                         |    |
| 導入 | ◆現代的なリズムのダンスの特性と表現の仕方を理解する。<br>・映像を見る場面を設け、現代的なリズムのダンスの特性を確認する。<br>・アのような反応から、リズムカルな曲に合わせて、自由に踊ってみる場を設ける。<br>・イのような反応から単元の学習問題「リズムに合わせて全身で楽しく踊るにはどうしたらよいだろうか。」を設定する。 | ア 「パプリカ」は踊ったことがある。Aさんが言うように、全身で踊っていることが、このダンスの特性だ。映像では、年齢や障害の有無に関係なく、みんな楽しそうに踊っている。<br>イ Bさんは、「ダダダ」の前の「ジャン」で片足を踏み込んで重心を前に移動させて、リズムに合わせていたが、私はうまくできなかった。どうすればリズムに乗って楽しく踊ることができるのだろう。<br>ウ Bさん以外の他の友も、曲のリズムに乗って様々な動きをしていた。Cさんは、「ダダダ」の前の「ジャン」の前で大きくジャンプし、同じ場面でもDさんは、別の動きをしていた。どちらもリズムに合っていたので、自分も友の動きを真似してみたい。 | <b>知</b><br>(ワークシート・観察) | 1  |
|    | ◆様々な曲のリズムに合わせて動き試し、「踊りのポイント」を見いだす。<br>・前時の振り返りから、学習課題「様々な曲を聞いて、リズムに合わせた『踊りのポイント』を見付けよう。」を据える。<br>・曲①を聞き、リズムに合わせて   | エ Bさんの踊り方は、「ジャン」に合わせてメリハリを付けていて、「踊りのポイント」になりそうだ。他にも、いろいろな変化のさせ方を見付けていけば、リズムに合わせて全身で踊っていく手掛かりとなりそうだ。<br>オ 動き試した中の「ダウンとアップ」の動きが、「ズンズンチャ」の   |                         |    |

